

平成 25 年度 卒業論文研究計画書

現代の若者の抱く理想について～時代・文化的背景からの考察～

2013 年 7 月 13 日

酒井麻衣子ゼミ

21011034 井戸田雄士

1. 背景・目的

「日本の若者は理想を持つことをしなくなってしまったのではないか」と言われている。戦時中・戦後間もない時代の若者について、三浦氏は「昔は納得していない戦争でも、祖国に戦ってくれと言われたからには、必死で戦ってやろうではないかと決心した。そして敗戦後の荒廃した祖国で、せめて国民が安穩に暮らせる体制と経済力を建設することを理想とし、その理想に向かって奮闘していた」(三浦朱門,2001)と述べている。一方、現代の若者に対して、枝野氏は「現代は衣・食・住・情報など、昔の人が理想としていた安穩に暮らせる体制と経済力が整ってしまっている。そのため現代の若者は、夢や理想を持ちにくい」(枝野幸雄,2013)とコメントしている。

果たして、本当にそうなのだろうか。確かに、社会人から見た学生は、理想を抱いていないように見えているのかもしれない。しかし、時代・文化的背景の影響から理想の形態が変化しており、現代の若者なりに理想を抱いているのではないだろうか。

本論文では、現代の若者と以前の若者の時代・文化的背景という観点から比較・分析(比較の案である「団塊の世代/団塊ジュニア世代/ゆとり世代」「X 世代/Y 世代/Z 世代」の特徴を調べ、今後検討の上比較するに適切なものを選定予定)をして考察することを目的とし、研究していく。

2. 研究方法

① 予備調査

調査目的:背景で挙げた各世代の時代・文化的な背景を把握する。その結果を基に、本調査の精査をする。

調査対象:各世代の社会人数名

調査方法:ヒアリング調査および二次データ収集

調査内容:

[各世代共通]

- ・理想は抱いているのかどうか
- ・その理想を抱いたきっかけは何か
- ・その理想に向けて、どのような努力をしているか(していたか)
- ・理想と自分の距離感はどのようなものか 等

[社会人のみ]

- ・現在の若者は、社会人から見てどのように映っているのか
- ・その理由はなんだと考えているか 等

② 本調査

調査目的:現代の学生と他世代の理想の傾向の変化、経済面や取り巻く環境などの文化的背景の比較をする。

調査対象:大学生

調査方法:ヒアリング調査

調査内容:予備調査の結果を基に決定する。

3. 今後のスケジュール

7月:SRC

8月:先行研究/予備調査実施

9月:予備調査まとめ/本調査の必要資料作成

10月:本調査実施/本調査結果の集計・分析

11月:調査結果のまとめ/仮説の検証・考察/結論・今後の課題

12月:推敲・清書/論文完成

4. 参考文献

(1)若者よ-若者と理想 三浦朱門(This is 読売 / 読売新聞社 [編] P244~247 掲載)

(2)枝野幸雄氏、多摩大学で語る より(2013/06/03 拝聴)